

宇治茶の歴史と発展に係る年表

時代	時代背景	喫茶文化の発展
平安時代 (794年～1185年頃)	<p>唐から煎茶法(煮茶法)が伝わる 【お茶を煮出して飲む文化】</p> <p>815 日本後記が編纂される 【お茶が登場する日本最古の記録】</p>	<p>喫茶の始まり 寺院社会・貴族社会に展開</p>
鎌倉時代 (1185年頃～1333年)	<p>1191 宋から点茶法が伝わる 【お茶をお湯にとかして飲む文化】</p> <p>梅尾、宇治で茶の栽培開始</p>	<p>武家社会に展開</p>
室町時代 (1336年頃～1573年)	<p>1343 闘茶(茶かぶき)が盛んに実施</p> <p>宇治の茶が梅尾茶とともに天皇や将軍家が愛飲するトップブランド茶となる</p> <p>「無上」「別儀」という初期のブランド茶が誕生 【宇治茶師が宇治郷を中心として広く分布する茶園を経営し、常により商品を開発】</p> <p>宇治の茶、足利将軍等により特別の庇護を受け、七園と称する指定茶園となる(宇治七名園)</p> <p>1486 武士の間で茶の湯が流行する この頃、わび茶の土台が作られる</p> <p>覆下茶園の出現(宇治市) 日本特有の抹茶の出現</p>	<p>庶民にまで展開</p> <p>茶の湯の登場</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>宇治市白川 宇治市宇治</p> </div>
安土桃山時代 (1573年頃～1603年)	<p>1577 白田(宣教師)、「茶の文化史」において宇治に覆下茶園が作られていると記載</p> <p>1584 豊臣秀吉 宇治郷に対して「朱印状」をだし、特権と認める</p> <p>1587 豊臣秀吉 京都北野で大茶会を催す</p> <p>茶の湯の作法が完成(千利休)</p> <p>千利休の茶の湯を宇治茶師が支える</p>	<p>茶の湯の確立 茶の湯が各階層で展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>宇治市宇治</p> </div>
江戸時代 初期(1603年～1691年)	<p>1632 お茶壺道中が制度化される(約250年間、幕末まで続く) 【宇治茶師が各大名と茶の好みなどに関するかなり具体的な指示された書状を交わすなど、茶の生産、流通からブレンドまで一貫して携わる】</p> <p>1654 明から淹茶法が伝わる 【お茶をお湯にひたしてエキスを飲む文化】</p> <p>1690 ケンペル(医師)「日本誌」に宇治茶のことを記載</p>	<p>宇治市宇治</p>
中期(1692年～1779年)	<p>1735 売茶翁 京の東山に通仙亭という茶店を設ける 【文人や知識人に前茶趣味が流行するきっかけ】</p> <p>1738 宇治製法(青製煎茶製法)を発明(宇治田原町)</p> <p>江戸で煎茶 大流行 煎茶(揉茶)の出現</p> <p>主要茶産地は、宇治製法を幕末までに習得。各地域の茶の品質が向上。 【現在の日本茶の製法の主流】</p>	<p>宇治田原町湯屋谷</p> <p>煎茶(揉茶)が庶民に展開</p>
後期(1780年～1867年)	<p>南山城地域は、煎茶生産に力を入れ、江戸商人と結びつき発展</p> <p>1835 玉露を開発(宇治市) 玉露(揉茶)の出現</p> <p>覆下栽培が南山城地域を中心に拡大</p> <p>1859 横浜開港(日本茶輸出が始まる)</p> <p>荒茶を買い、撰茶をして売るという茶の商いの比重が高まる(木津川市山城町上狛)</p> <p>1867 神戸開港 【宇治茶、花形輸出商品として外貨獲得に貢献】 【茶問屋が輸出発信基地】</p>	<p>宇治田原町湯屋谷、奥山田、郷之口 和東町湯船、原山</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>宇治市白川 城陽市上津屋</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>和東町釜塚、石寺、撰原 南山城村童仙房、高尾、田山 木津川市山城町上狛</p> </div>
明治時代 (1868年～1912年)	<p>山なり茶園の開墾(煎茶の生産体制の強化)</p> <p>女子教育の一環に茶道が取り入れられる</p> <p>国内市場開拓へと展開し、通信販売などにより、家庭に生活文化の茶を普及</p>	<p>茶の湯が女性にも展開</p>